

平成 18 年度 研究協力委員会 活動報告

平成 18 年度は 3 つの活動目標を掲げ、研究協力委員会の立ち上げや共同研究などを柱とした活動を推進した。

< 活動目標 >

- (1) 大学シーズと企業ニーズの融合
- (2) 共同研究の推進
- (3) 研究成果の発信

< 活動成果 >

1. 第 1 回広島大学日本ハム研究協力委員会の開催
2. 共同研究「豚心筋のカルシウム吸収促進作用に関する研究」の推進
3. 共同研究「鶏胸肉抽出物 (CBEX) の抗疲労メカニズムの研究」の推進
4. 共同での研究成果の発信
5. その他、「包括的研究協力協定に基づく研究協力委員会」の設置に関する申し合わせ、「カルノシン・アンセリン研究会」発足の諸準備

< 活動概要 >

- (1) 大学シーズと企業ニーズの融合

毎年 1 回、広島大学および日本ハムの担当者を交えたグループ討議を通じて、情報を共有化し、大学シーズと企業ニーズの融合化を推進した。

第 1 回：「研究協力委員会」

日時：平成 18 年 12 月 15 日 (金) 13:00 ~ 15:30

会場：広島大学 研究科長室・第 1 会議室

発表テーマおよび演者：

海外実習(欧州のオーキーホールディングス社ワイアラ牧場見学など)の報告(広島大学、吉村幸則)

ニワトリモノクローナル抗体の有用性とその応用展開(広島大学、松田治男)

日本ハム(株)中央研究所が取り組んでいる「研究トピック」の紹介(日本ハム(株)中央研究所、森松文毅)

遠赤外線加熱を併用した過熱蒸気処理の伝熱および品質特性(広島大学、鈴木寛一)

(2) 共同研究の推進

共同研究

【研究題目】

豚心筋のカルシウム吸収促進作用に関する研究

【研究担当者】

広島大学大学院生物圏科学研究科：西村敏英

日本ハム(株)中央研究所：雑賀 愛、高畑能久

共同研究

【研究題目】

鶏胸肉抽出物 (CBEX) の抗疲労メカニズムの研究

【研究担当者】

広島大学大学院総合科学研究科：和田正信

日本ハム(株)中央研究所：前村公彦、佐藤三佳子、高畑能久

(3) 研究成果の発信

「部分精製心筋カルセケストリンのカルシウム沈殿抑制効果」山新ら、日本畜産学会 107 回大会(東京) 講演要旨集 pp.134

「カルノシン・アンセリン摂取がラット骨格筋の収縮特性に及ぼす影響」前村ら、第 61 回日本体力医学会大会(兵庫) 予稿集 pp.354

「CBEX 摂取による筋小胞体 Ca^{2+} 感受性の改善作用」Maemura et al., American College of Sport Medicine (USA) 5 月末発表予定

“Dietary chicken breast extract inhibits high-intensity exercise induced decrease in rat sarcoplasmic reticulum Ca^{2+} binding.” American Journal of Physiology (投稿中)

(4) その他

平成 18 年 11 月 1 日付け、広島大学・日本ハム(株)「包括的研究協力協定に基づく研究協力委員会」の設置に関する申し合わせを両者合意のうえ、取り交わした。

広島大学生物圏科学研究科を事務局として、「カルノシン・アンセリン研究会」を発足するため諸準備を行った。

広島大学、日本ハム(株)、(株)島津製作所が、生研センターによる「異分野融合研究支援事業」に、共同で応募した。

以上